

# 卒業にあたって

山本周平

2019年3月学部卒

2021年3月修士修了

恐れ多くもご指名をいただいたので、京都大学を卒業するにあたって大学生活を振り返って何か文章を書き残そうと思います。

将来の選択肢は広い方がよいだろうということで入学時に学科の選択がない京都大学理学部に入学しました。しかし、1回生前期で履修登録した物理・化学・生物の基礎科目の成績があまりに悪く(かろうじて丸暗記で化学基礎の単位が取れたのみでした)、系登録で数学系を選ぶことを早々に決心しました。自主ゼミを行うサークルに所属していたので、優秀な同期や先輩後輩に助けられながらなんとかかんとか大学の専門的な数学を学ぶ日々でした。

とは言いつつ、学部時代に最も力を入れて取り組んだのは競技かるたでした。京都大学かるた会というサークルに所属して、特に1,2回生の頃は、西部構内の共用和室で夜遅くまで練習をしていました。休みの日には全国で行われる大会にも出場していて、大会に行くという名目で全国各地を観光したことは大学生活の大きな思い出の一つです。

数学の授業の単位は何とか取得するものの内容の理解は追いついておらず、研究を志す優秀な同期を見ながら自分は就職をするのだろうかと考えていたのですが、3回生になり保険数学の授業でアクチュアリーという職業を知ることになりました。私はこの後大学院で保険数学ゼミに所属して生命保険会社に内定をいただいたので、アクチュアリーサイエンス部門を設置している京都大学理学部には感謝の気持ちがあります。早い段階からアクチュアリー試験に臨むことができたので、試験科目取得もスムーズに進んだと思います。

アクチュアリーを志すことにしたとはいえ、卒業のためには数学講究で専門的な数学に向き合わなければなりません。私の年はたまたま損害保険を大学の確率論を用いて解析する本が候補に挙がっていたため、これ幸いと講究の本を決めました。しかし、選んだ本は前提となる確率論の知識についてあまりフォローが多くなく、行間も私にとっては広く感じられたため非常に苦勞をしました。講究を見て下さった重川先生のご指導の下、四苦八苦しながら本を読み進める日々でしたが、あんなに1冊の本と深く向き合って精読する経験はもう後にも先にもないのではないかと思います。非常に苦勞をしましたが、書かれていることが本当にあっているかを考えながら論理の流れを追い書かれていることを確実に理解していくという作業は、その数学的内容以上のものを私にもたらしてくれたように思います。おそらく就職後社会人として働いているうちに大学で学んだ数学の知識は徐々に忘れていくことになると思うのですが、この自分の頭で考えて理解するという能力は失われないのではないかと思います。これが、私が大学で学んだ最も大事なことではないかと思

います。

大学院に進んで、私は先述の通り保険数学ゼミに所属しました。ある意味数学科らしくないと言えるようなゼミもあり、それはそれで苦労したのですが、保険数学ゼミで学んだことが真価は保険会社で働き始めて実感するのだろうなと思っています。実務経験豊富な先生方にご指導いただき、本当に多くのことを学びました。忘年会などのイベントごとができたのは修士1年の時だけでしたが、楽しい時間もたくさん過ごさせてもらったゼミでした。

特に、修士論文をご指導いただいた浅野先生には大変お世話になりました。研究はかなり好きにさせてもらっていて、研究テーマが定まる前も、定まってからも興味のあることに取り組むことができました。内容がどの程度の出来なのかを客観的に判断することは難しいですが、私の中では修士の2年間の集大成として満足いく内容になったと思っています。

私は大学を出て就職しますが、数学教室で身に着けることができた能力は社会人になっても私の大きな助けになってくれるのではないかとと思っています。「数学を学んでなんの意味があるのか」なんて世の中では言われがちなのですが、私は京都大学数学教室で数学を学ぶことができ良かったと胸を張って言えると思います。お世話になった先生方、事務などのスタッフの方、一緒に学んだ同期、先輩、後輩に感謝しつつ文章を閉めたいと思います。まとまりのない文章でしたが、最後まで読んでくださりありがとうございました。

